

支援が必要な母親への 妊娠期からのかかわりを考える 国際シンポジウム

ニュージーランドでは生後4~6か月から5歳まで地域の看護職が継続して家庭訪問を実施しています。

その9割以上を担っているのがPlunket Nurse (プランケットナース) です。

Hawke's Bay地区のPlunket Nurse管理者であったSkerman (スケルマン) 氏は、支援につながりにくい若年母親に妊娠期からのつながりが重要であると感じ、妊娠期からの家庭訪問プログラムを構築しました。シンポジウムでは、Skerman氏が行った**妊娠期から乳幼児期にかけての家庭訪問実践**を学び、わが国での展開についてディスカッションしたいと考えています。

関心のある保健・医療・福祉関係者のご参加をお待ちしています。

I部 講演 (13:30~15:00)

ニュージーランドの母子保健システムとPlunket Nurseの活動
ー若年母親との妊娠期からの関係構築を目指して

Nicky Skerman氏 (Population Health Strategist, Hawke's Bay District Health Board)

通訳
あり

II部 パネルディスカッション (15:10~16:30)

支援が必要な母親に対する妊娠期からの関わり

座長 和泉京子氏 (武庫川女子大学 看護学部 教授)

1. 社会的経済的リスクを抱える妊婦に対する医療機関の関わり

荻田和秀氏 (りんくう総合医療センター 周産期センター産科医療センター長兼産婦人科部長)

2. 周産期からの医療機関と地域の保健機関との連携

上野昌江氏 (大阪府立大学 地域保健学域 看護学類 教授)

3. 地域における若年母親の支援ー妊娠期からのかかわりに着目して

松山美紀氏 (東大阪市西保健センター 主査・保健師)

コーディネーター 大川聡子氏 (大阪府立大学 地域保健学域 看護学類 准教授)

日時 2015.11.26(木) 13:30~16:30

会場 あべのハルカス25階会議室

対象 保健・医療・福祉関係者

参加費
無料

主催 大阪府立大学 地域保健学域 看護学類 地域看護学分野

後援 東大阪市・大阪府立大学後援会・大阪府看護協会
社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会・ニュージーランド大使館
読売新聞大阪本社

お申し込み 件名を「11月26日シンポジウム申込み」として

①お名前 ②ご所属 ③職種 ④電話番号をご記入の上
メールをお送りください。

宛先: phn-nz@nursing.osakafu-u.ac.jp

いただいた個人情報は、本シンポジウム運営以外の目的では使用しません



*定員に達し次第受付を締め切ります。